

なぜ調査を行うのですか？

今、福岡市の小中学校では、全ての子どもが身につけてほしい大事なこととして、福岡スタンダード「あいさつ・掃除・自学・立志」をかかげて、義務教育9年間の積み重ねを大切にされた教育を進めています。

そのため、義務教育の期間を

前期（小1～小4）…学習や生活の基盤づくりの期間

接続期（小5～中1）…身につけた力を活用することを重視する期間

後期（中2～中3）…能力や個性を伸ばし進路の実現に向けた期間

分け、特に※「中1ジャンプ」できるようにするために、接続期（小5～中1）を重視して取り組んでいます。

その際、それぞれの**まとまりの節目の段階**で、子どもたちがどのような生活をしてどのくらい力をつけているのかをしっかりととらえ、ご家庭と協力しながら学校での指導を工夫していくことが大切になります。

そのため小学校では4年生と6年生で

「生活習慣・学習定着度調査」を行います。

※「中1ジャンプ」…中学生になって、子どもが感じる小学校生活との様々な違いを乗り越える力をつけること

どんな調査ですか？

【生活習慣や学習への意欲などに関する調査（7月実施）】

- あいさつ、掃除、家庭学習などの基本的な生活習慣に関すること
- 学校生活、友達関係、学習意欲などの学校生活適応に関すること
- 進路や将来の展望に関すること

【学習内容の定着度をはかるテスト（12月実施）】

- 小学校…国語・社会・算数・理科



以上、福岡市教育委員会作成のパンフレット（平成23年6月）より掲載しました

今年度の「生活習慣や学習への意欲などに関する調査」の結果から

本校でも今年度、7月7日（木）に4、6年生の児童を対象に「生活習慣や学習への意欲などに関する調査」を行いました。その結果の概要を報告します。

全体的に見れば、4年生、6年生ともに福岡市の平均をやや上回っており、特別に落ち込みの見られる項目はありませんでした。ただ以下の項目については、多少課題が見られました。

〈4年生〉

- 早寝をしています。
- 家庭で決められた手伝いをしています。
- 学校や家庭で身の回りの片付けを自分でしています。
- 毎日のように読書をしています。
- クラスのためにできることを考えて生活しています。
- ★ 学習意欲については個人差がありました。

〈6年生〉

- 早寝をしています。
- 家族から言われなくても勉強をしています。
- 時間を決めて、テレビ・ビデオを見たりゲームをしたりしています。
- 毎日のように読書をしています。
- クラスのためにできることを考えて生活しています。
- ★ 学習意欲については概ね高い結果でした。

そこで、共に考えていきましょう… 共に育てていきましょう…

◇就寝時間について

「早寝・早起き・朝ごはん」は生活の基本です。睡眠は心と体の成長に深くかかわっています。学力を伸ばしていくための大切な素地でもあります。

◇家庭学習の習慣づくり

学習は集中して効率よく！落ち着いて勉強できる環境をつくってあげてください。まずは勉強を始める時刻の約束を話し合うことから始めましょう。「子どもが自分で勉強する」と決めることが大切です。学校でも「家庭学習のやりかた」について子どもたちに指導していきます。

◇読書習慣について

読書は心の栄養です。学校では読書の楽しさを感じさせるよう、図書館教育の充実や「音読・朗読ハンドブックを使った朝の読書」「読み聞かせ」等の取組みを行っています。ご家庭でも映像・画像ばかりでなく、文字に親しませる機会を増やしましょう。「親子で読書の時間」をつくるのもおすすめです。

◇メディアとのつきあい方

テレビ・ビデオ・ゲームとの接触時間を自分でコントロールする力を育てましょう。そして外遊びも大切に。また、インターネットやメール等の正しい使い方・ルールについてしっかり話し合った上で使わせるようにしましょ

◇家庭での自分の役割を

家庭の中で決められたお手伝いをしている子の割合がが全市的にもやや下降傾向にあるそうです。自分の仕事を責任持ってやりとげることが、お子さまの将来に絶対に必要な資質です。まずは「お手伝いやそうじ」から。そして、高学年になるにつれ「家庭での仕事」をお子さまに任せ、責任を持ってやらせてみましょう。

◇クラスのためにできることを考えて生活しているか

この問いに関しては本校でも、そして全市的にもやや課題が見られました。さまざまな学校行事や委員会活動、または学年や学級での自主的な活動の内容を工夫し、活性化していきながら、協力することの大切さや学級集団としての高まり、達成感を感じさせていきたいと考えています。

◇学習意欲を高めるために

学校でも「わかった」「できた」という満足感・達成感を実感できる授業、学習する目的や意義を感じられる指導や評価の工夫に取り組んでいきます。ご家庭でも、お子さまのがんばりに対して、結果だけでなくそこまでの過程や小さな努力に対しても賞賛の声かけをしていきましょう。